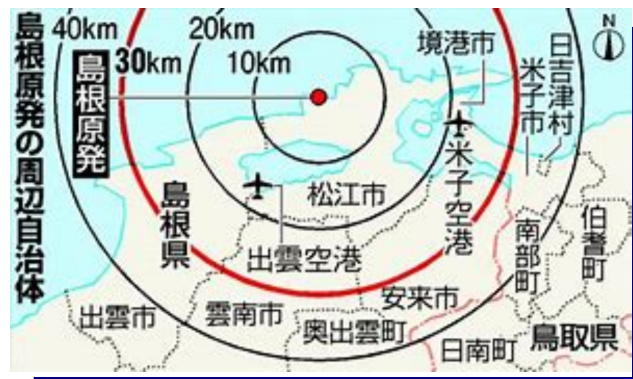


## 新規原発「島根3号機」は要らない！ 二木洋子 関西ブロック事務局



10月29日、芦原康江さん（さよなら島根原発ネットワーク、前松江市議）をお迎えし、島根原発（中国電力）を取り巻く動きについて、学習会を開きました。島根原発は松江市という県庁所在地に立地する唯一の原発で、1号機（46万kW）は廃炉、2号機（82万kW）は新規規制基準適合かどうか審査中で、福島第一原発事故後、停止したままです。

ところが、中国電力は5月から事故時に建設中だった3号機（137.3万kW）を新たに稼働させようと、周辺自治体の同意を得る手続きを始め、適合性審査を原子力規制委員会に申請したのです。

これに対し規制委は、3号機の申請内容の根



パワポイントを使って説明する  
芦原康江前松江市議

拠が不明なことなどから、2号機の審査が終了するまで3号機の審査は行わないと判断しました。当面は2号機を再稼働させない取り組みが重要となりましたが、島根県も松江市も国や規制委任せの答弁を繰り返さずばかり。今後は、東海第二原発30キロ圏6市村に続き、2号機の同意権（事前了解権）付の安全協定を実現できるよう、自治体等へ要請を続けていきたいとのことでした。

私たち関西ブロックも、若狭や瀬戸内海の原発再稼働阻止とともに、中電の島根3号機や上関原発など、新規原発を動かさせない、建設させないため、関西、四国、中国地方の皆さんと連携し取り組むことを確認しました。

### 【2019年のおもなスケジュール】

★3月24日（日）高浜町文化会館  
老朽原発動かすな！高浜全国集会

★5月19日（日）関電本店前  
老朽原発動かすな！関電包囲全国集会

★5月26日（日）たんぼぼ舎4F  
反原発自治体議員・市民連盟第9回総会

★6月23日（日）クロスパル高槻  
〃 関西ブロック第3回総会

★7月13日（土）～14日（日）  
ホテルグリーンパレス福島

福島を忘れない！全国シンポジウム  
被害自治体現地視察

原発電気 さよならなら  
反原発自治体議員・市民連

### 来年もよろしくお願いします！

#### 年末カンパのお願い

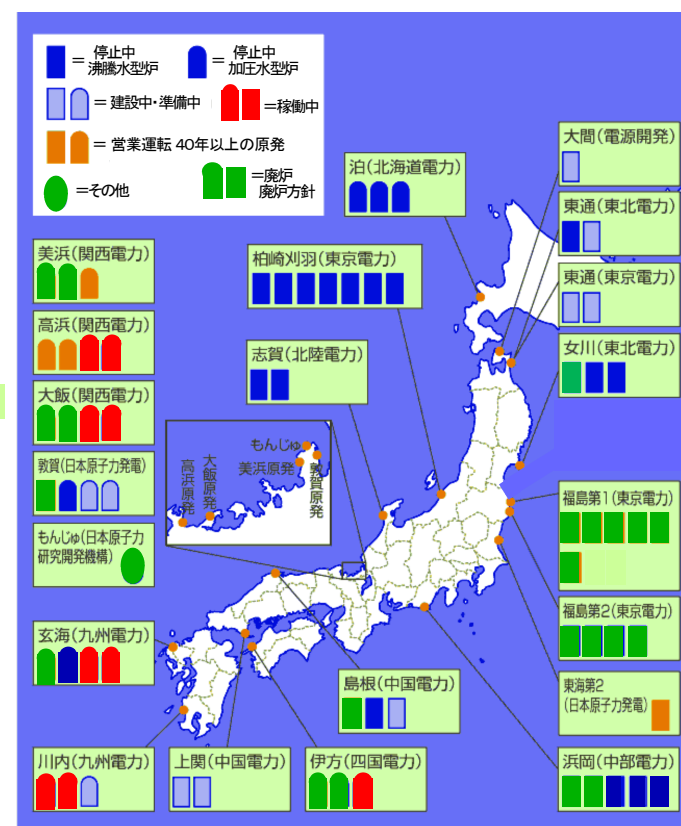
福島原発事故被害自治体議員との交流、原発立地自治体への申し入れなど、北海道から鹿児島まで全国を駆け巡り、議員・市民連盟の役割がますます高まっています。ご支援をよろしくお願いします。

第6回福島を忘れない！全国シンポジウム報告集は作成中です。会員の皆様には次号のニュースと一緒に送ります。

## 原発やめようニュース 反原発自治体議員・市民連盟

NO. 31 2018年12月

## 東海第二老朽原発の60年間運転延長はあまりに無謀！ 全国の老朽原発廃炉をめざし、東海第二STOPを



### 東海第二再稼働に県内自治体7割が反対

11月27日で40年の運転期限を終えた東海第二原発に対し、原子力規制委員会は11月7日、さらに20年の運転延長を認可しました。福島第一原発事故以降、茨城県44の市町村のうち30議会（68%）が再稼働反対や廃炉を求める意見書を可決しています。その中には住民の避難計画が義務付けられている30キロ圏14自治体のうち7議会が含まれています。今後は、東海第二原発30キロ圏6市村の同意が焦点となりました。

### 反原発自治体議員・市民連盟

共同代表 佐藤英行（北海道岩内町議会議員）  
野口英一郎（鹿児島市議会議員）  
福士敬子（元東京都議会議員）  
武笠紀子（元千葉県松戸市議会議員）

〒168-0072  
東京都杉並区高井戸東3-36-14-301  
Tel/FAX 03-5936-0311  
<http://nonukesjapan.org/>  
郵便振替 00110-7-449067

### 30キロ圏6市村の同意権を活かそう

東海第二原発30キロ圏6市村のうち、常陸太田市は3月の第1回定例会で、東海第二の20年間運転延長に反対する請願を趣旨採択。6月水戸市議会は、公明が主導し反対を決議。10月那珂市長が、再稼働反対を正式に表明。11月19日ひたちなか市の市長選で、無所属新人元県議の大谷明氏が、自民と国民民主党が推薦した候補を破り初当選。東海第二原発再稼働に反対する民意を反映した結果です。

2019年は、茨城県自治体議員連盟と力あわせ、この6市村の動きをさらに拡大する年です。そのためにも4月統一地方選挙に勝ち抜き、老朽原発を止める闘いを強めましょう。

### 若狭の老朽原発再稼働を止める闘いが勝負

一方、若狭の老朽原発の再稼働をめぐる状況が緊迫しています。関西電力は、来年10月に、高浜1、2号機の再稼働をめざし、美浜原発3号機の再来年3月再稼働に向けた準備を進めています。福島第一原発事故以降、市民感情から原発の新設が難しい状況で、老朽原発を動かさなければ、2030年までに原発の発電を22%にする安倍政権のエネルギー方針が達成できません。関電が老朽原発稼働推進役になろうとしています。来年3月24日、高浜現地行動、5月19日関西電力本店包囲行動へ、全国の皆さんと連携し取り組みましょう。



## 北海道胆振東部地震と泊原発



岩内町の真向かいに建つ泊原発

2018年9月6日午前3時7分ごろ、携帯電話から、そのあと自宅にある防災行政無線がけたたましい緊急放送。その直後の3時8分に厚真町を震源地とするマグニチュード6.7の北海道胆振東部地震が発生、北海道初めての震度7であった。死者41人、負傷者691人、住宅の損壊は7555棟。北海道内全域295万戸が停電した大規模停電（ブラックアウト）。J R北海道、地下鉄、市電の運転停止、高速バス20事業者、路線バス25事業者全線運行休止。新千歳空港は設備の破損やターミナルビルでの多数の水漏れで運行見合わせ。すべての産業に多大な損害と影響をもたらした。

北海道電力では厚真火力発電所1、2、4号機の取水路地盤・道路の一部に液状化現象や発電所間のボルトの破損。水力発電所に漏水の被害、送電線の断線、鉄塔倒壊、地崩れ液状化による電柱の流失等の被害が発生した。

### 『ただの原発事故？』のため避難協定を調印

2018年10月30日に、千葉県柏市内のホテルで、茨城県水戸市と千葉県東葛6市（我孫子市・野田市・柏市・松戸市・流山市・鎌ヶ谷市）の避難受け入れ協定の調印式がありました。水戸市は、東海第二原発の30キロ圏内にあり、27万人市民の避難計画を策定中。茨城県南部、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県に避難者の受入れを求めており、4万4千人が千葉県に避難の予定です。大地震により東海第二原発で事故発生となれば、千葉県東葛6市も被災し、避難受け入れどころではありません。これに対する行政

佐藤英行 北海道岩内町議会議員

### 設定超える地震動に耐えられない泊原発

泊原発においては外部電源が喪失したが、幸いにも非常用ディーゼル発電機による起動により事なきを得た。泊原発構内には使用済み核燃料集合体（北電はリサイクル燃料と言っている）が981体保管され、そのほかに新燃料、装荷燃料がある。さらに低レベル放射性廃棄物がドラム缶で12448本貯蔵されている。泊原発では地震による炉心（燃料）損傷などの重大事故を起こさないための耐震設計は基準地震動・最大加速度550ガルとしている。今回の地震による揺れの大きさを示す加速度（ガル）は最大で震源地厚真町から20 kmの追分で1796ガルを記録し、約50 km離れている栗山町でも614ガルとなった。震源から60 kmほど離れている札幌市清田区では液状化現象で家が傾き破損し、道路も歪み地割れを起こしている。

今回と同程度の地震が起きた場合、確実に泊原発の損壊につながるということだ。原発の損壊がどのような被害につながるかは、私たちは福島第一原発事故で経験している。安直に「泊原発が運転していれば」などという意見は論外であり、「泊原発周辺に同規模の地震が起きたら」と考えるべきである。

### 受け入れ自治体・松戸市 武笠紀子

側の答えは「ただの原発事故の時だけの避難協定だから大丈夫」（茨城のテレビ記者談）とのこと。避難が前提となる『ただの原発事故』とは何でしょう。今回、協定調印を知った東葛6市の市民は、「東海第二原発20年延長と再稼働をやめる前提での協定を」と各自自治体に申し入れましたが、無視されたまま調印が行われました。

11月7日、原子力規制委員会は20年延長を認可。今後は実効性ある『避難受け入れ計画』かどうかを調査し、問題点を指摘します。

## 原発の40年越え運転を許してはならない 木原壮林 若狭の原発を考える会



原発は、人類の手に負える装置ではなく、ひとたび重大事故を起こせば、生活も職場も、農地も海も、人の命も尊厳も奪い去ることを、チェルノブイリ、福島原発事故が大きな犠牲の上に教えています。それでも政府と関西電力は40年越えの老朽原発高浜1、2号機と美浜3号機まで再稼働させようとしています。

それは、出力が小さい原発や安全対策ができない原発は切り捨て、残る原発全ての運転

## 若狭の原発と避難計画



福井県おおい町民約4,400人を受け入れる計画となっている。

8月26日、選ばれた1校で避難所開設訓練が行われた。市は急きょ受入マニュアルを作成し対応。町民135名は朝9時におおい町を出発。京都府内でスクリーニングを受け、兵庫県三木防災公園でバス5台に乗り換え、小学校体育館に午後1時半到着予定。猛暑の午後1時、体育館の床にはブルーシートがひかれ、スポットクーラー・大型扇風機も全開で暑さ対策も万全！伊丹市、福井県、おおい町、大阪府、兵庫県のゼッケンを着けた関係者が多数待機していた。福井県ゼッケンをつけた方に話しかけた。

### 受け入れ自治体・伊丹市 兵庫県 おおつる求 市議会議員

「今朝、福井から来られたんですか？」「いえ、関電の者です。大阪から来ました」…休日出勤お疲れ様。

区長に集めてもらったおおい町の参加者を乗せて、予定の時間にバス到着。体育館で通過証を手に地区毎で受付。「これがスクリーニング場所を通過した証明ですよ」と前の男性に聞いてみたが、反応は「??」。隣の男性が「そうみたいです」。その後、参加者へ健康チェックカードが配布され、記入後にカードと引き換えに、カロリーメイトと飲物が配られた。最後は伊丹副市長が挨拶し受け入れ訓練は終了。市宣伝パンフを乗せてバスは帰っていった。滞在時間1時間弱。通過証を持っていなかったり、自家用車で来た場合の受入判断は？「想定していない」と市担当者。おおい町住民を受け入れる事さえ関係者以外の市民は知らない中、お金と人と時間をかけた今回の訓練は現実的ではないと改めて認識。